

現代社会における 不安・抑うつ を考える

—フロイト・ラカンの見地から

加藤敏氏講演会

2011年7月8日（金）18:30

東京大学駒場キャンパス 18号館4階コラボレーションルーム1

使用言語：日本語 入場自由 | 登録不要

講演者紹介

自治医科大学精神医学講座教授。精神病理学・精神神経科学においてとくに統合失調症および躁うつ病を研究。哲学的な関心を基調とする論著において、治療実践の現場で紡ぎだされる臨床知を座標軸にして、人間をめぐる思索をより大きな時空間で展開。『構造論的精神病理学—ハイデガーからラカンへ』（1995年）、『創造性の精神分析—ルソー、ヘルダーリン、ハイデガー』（2002年）に連なる著作として昨年上梓した『人の絆の病理と再生—臨床哲学の展開』では、他者とのあいだで明らかになる自己のメランコリー性のあり方とパラノイア性のあり方を論じ、人と人のあいだに結ばれる絆の多様性と、現代における共同性およびその倫理を考察した。主要著書として他に『分裂病の構造力動論—統合的治療にむけて』（1999年）、『統合失調症の語りと傾聴—EBMからNBMへ』（2005年）、『フロイト全集』19巻（監訳、2010年）など。

主催：東京大学 GCOE 「共生のための哲学教育研究センター」(UTCP) 「精神分析と欲望のエスティクス」